



1/13 (日) 旧石器人「港川人」から沖縄を知る

南城市にあるサキタリ洞の遺跡発掘調査で、約2万年前の貴重な人骨と石器が発見されました。これは、旧石器時代の文化を解明することができる発見で、その発掘調査を担当した山崎真治さんによる講演が浦添市中央公民館で行われました。

「港川人から見える沖縄の歴史」をテーマに、石器等の写真をスライドで見ながらの進行で、化石発見により沖縄の歴史はどこまで遡って知ることができるのか、沖縄の旧石器時代の成立、などについての講演でした。来場者は自分のルーツにつながるかもしれない話を興味深そうに聞いていました。



12/19 (水) 児童生徒の作品も美術館に展示

浦添市美術館で市内の各小中学校と特別支援小中学校の生徒たちの絵や工作などの作品307点を展示する「第13回浦添市小中学校美術作品展」が開催されました。

展示会の開会式では、優秀な作品を制作した児童生徒を表彰し、賞状と記念品が贈られました。

作品について、審査委員長の神山泰治さんは「作品はみんな伸び伸びとしたものですばらしい。図工の時間の楽しさが伝わります」と講評しました。市長賞を受賞した宮城小1年又吉亮仁さんと港川中3年本村小百合さんが受賞児童代表として挨拶をし、作品制作時の思いも語ってくれました。



1/12 (土) 健康を考えながらの初笑い

今年も喜劇の女王、仲田幸子座長が率いる劇団でいご座による「がんじゅう劇場」がてだこホールで公演されました。健康づくりの推進と中高齢者の健康保持、医療費の適正化を目的に行われる「がんじゅう劇場」は毎年大人気で、今年は650人の来場がありました。

楽しみながら健康について考えることができる本公演が、今年の初笑いとなった来場者もあり、会場は沸きあがっていました。

同イベントでは、操体法の指導や健康に関する講話も行われました。



12/20 (木) コンテストが人権を考える機会に

12月20日「第32回全国中学生人権作文コンテスト沖縄県大会」入賞者の伝達表彰式が行われ、最優秀賞を受賞した浦西中学校1年の知念一菜さん他本市中学校から6人が表彰を受けました。

受賞した生徒たちは「今回のコンテストを通して、改めて人権について考えることができてよかった」と述べました。

知念さんの作品は、県代表として全国大会にも出品され奨励賞を受賞しました。

作品の内容は、小学生の頃にいじめを受けた体験から学んだことが書かれていました。



1/7 (月) 新年の始まり、祝賀会・出初式

平成25年新年祝賀会が浦添市民体育館で開催されました。祝賀会には市民の他、市内外から多くの企業や団体の関係者が参加しました。浦添市の発展を祈願して行われる恒例の鏡開きでは、市長をはじめ、来賓の皆さんの「よいしょ」という掛け声で、樽の蓋が勢いよく割られました。

同日、浦添市消防本部では、消防出初式が行われました。式に参列していた消防職員、消防団員、女性防火クラブのメンバーたちの表情には、今年も本市の火災・防災に力を注いでいくという意欲がみなぎっていました。また、一日消防長として、てだこレディーの土地美佳さんからも、今年も火災から市民を守って欲しいと激励がありました。



12/14 (金) 不思議の国のアリス、スライド講座

市立図書館で『不思議の国のアリス』の作者ルイス・キャロルの生い立ちやその舞台であるイギリスの生活などについて、スライドを活用した講演が行われました。講師は中央大学名誉教授の池田正孝氏で、講演には多くの方が参加しました。

『不思議の国のアリス』は、空想の話のように見えて、実は実在する人物をモデルにして創作されたということが説明され、参加者は興味深く聞いていました。スライドでは挿絵や作者と関連の深い場所などを紹介し、参加者はこの作品の新しい魅力を発見することができた様子でした。



12/18 (火) 暴力団廃止へ向け、警察署と協定締結

浦添市と浦添警察署が「浦添市が暴力団排除措置を講じるための連携に関する協定」を締結しました。

本市では公共工事等が暴力団員の資金源とならないよう「浦添市暴力団排除条例」が定められ、この条例をより実効性のあるものとするため、今回の協定が締結されました。連携内容は、本市が発注する工事業について暴力団との関係がないかを浦添警察署に照会し、回答をもらうというものです。

市民の安全・安心のため、市と浦添警察署の連携を強めるという市長や並里浦添警察署長の暴力団排除への決意が感じられる締結式でした。